

吾妻溪谷

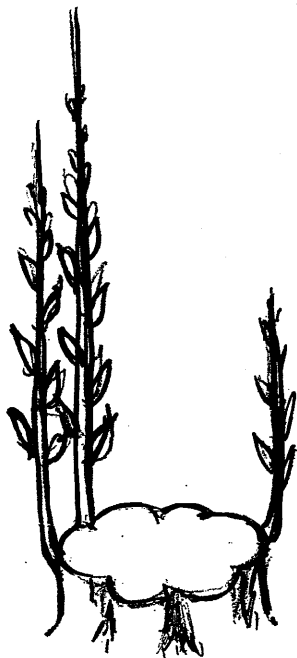
ハッ場ダム

2006. 5 NO. 15

溪谷はいま芽吹をどき

現地の今を見てください!!

利根川流域脱ダム宣言



—— 目次 ——

1. 本当に大丈夫？ ハッ場ダム
2. 現地は、今— その6
3. アースデイ in 代々木公園
4. おいしい地下水を飲み続けたい
5. 青い夜にうたう夢
6. 裁判は、今
7. 事務局ニュース

ハッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

本当に大丈夫？ ハツ場ダム

06年(平成18年)1月15日(日曜日)

広報 **やんば**

水とともに生きる

2006

1 / 15

No.12

発行 国土交通省ハツ場ダム工事事務所
群馬県吾妻郡長野原町吾妻11
0279-82-2311
ホームページ http://www.ktr.mlit.go.jp/yanba/
編集 上毛新聞社出版局

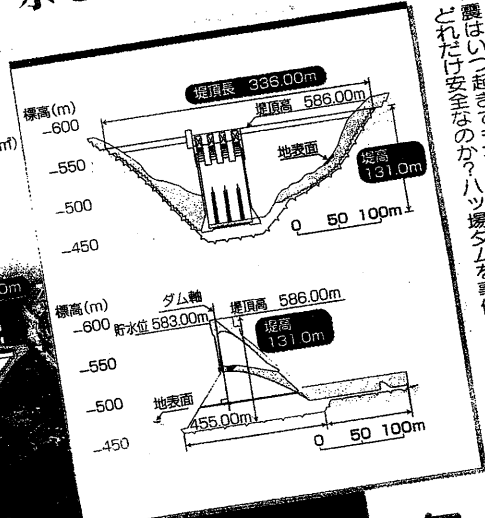
ハツ場ダムの上流域は 日本有数の火山地帯

火山活動で浅間山噴火の際には火山泥流が吾妻川に流れ出し、過去には大災害も起きている。そうした状況の時、ハツ場ダムは巨大な砂防ダムの役割を果たすと考えられている。

大地震

広報やんば No.12より

ハツ場ダムの構造
重力式コンクリートダム
総貯水量 1億750万m³(有効貯水容量9千万m³)
堤頂長 336.00m
堤高 131.0m
堤体積 160万m³



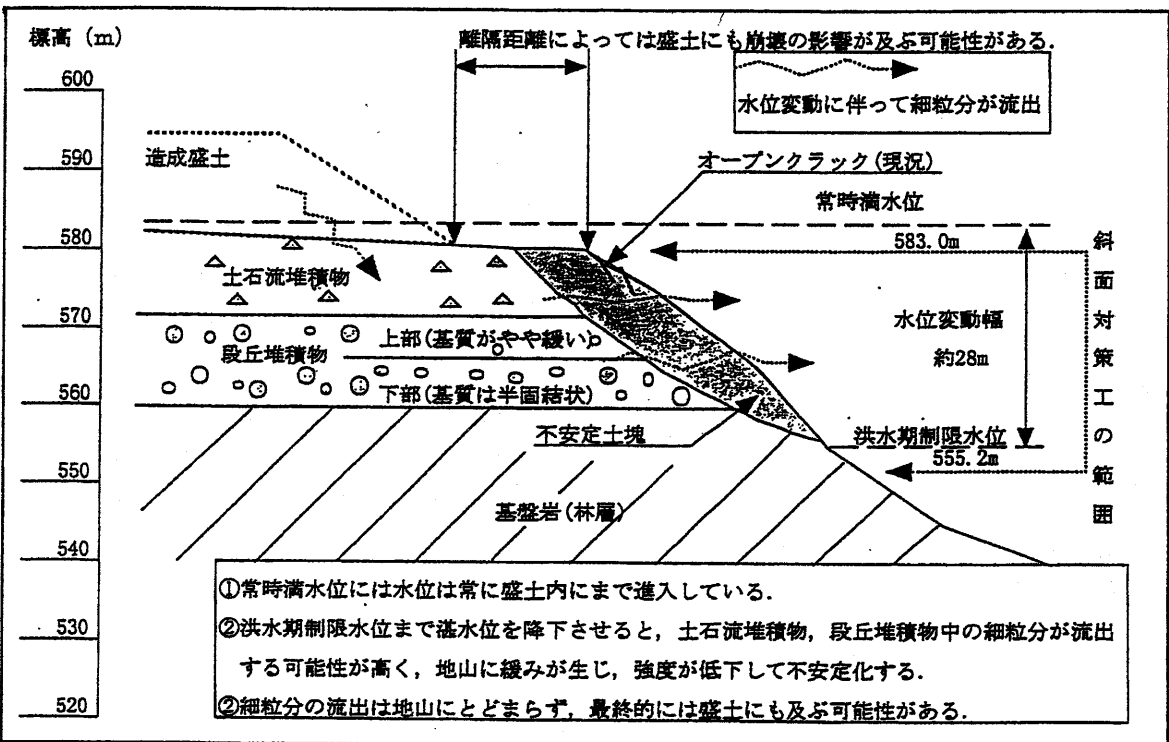
昨年、発覚したマンション・ホテルの耐震データ偽造問題をきっかけに、建造物に対する不安・不審の目がかかり、建設物に「安全」を求め、公共建造物を営む耐震性を見直す動きも広がっている。地震大国と言われる日本。大地震はいつ起きても不思議ではない。地震に対してダムは、果たして安全なのか？ハツ場ダムを事例に検証してみた。

危機等

「広報やんば」は国土交通省ハツ場ダム工事事務所発行、吾妻川流域住民に新聞付込みで届けられている。

最大震度を記録した一昨年の新潟県中越地震、土砂災害は、あながち「ダム決壊」を思わせるものだった。しかし、大型の人工構造物である本物のダムが、地震で決壊したという

地震にも噴火にも強いハツ場ダムー国土交通省



- ①常時満水位には水位は常に盛土内にまで進入している。
- ②洪水期制限水位まで湛水位を低下させると、土石流堆積物、段丘堆積物中の細粒分が流出する可能性が高く、地山に緩みが生じ、強度が低下して不安定化する。
- ③細粒分の流出は地山にとどまらず、最終的には盛土にも及ぶ可能性がある。

図V.1.1.4 西久保地区河岸斜面の構造と土木地質的問題点(国土交通省調査資料より)

本当に大丈夫? ハツ場ダム

観光振興と地滑り対策

藤岡・讓原地区

念願の道路と橋開通



住民らが参加し、下久保橋で行われた開通式

国土交通省が藤岡市讓原地区で進めている地滑り対策事業で、工事用道路と下久保橋(仮称)の開通式が十八日、下久保橋付近で行われ、工事関係者や地元住民ら八十人が出席した。

同地区は、一九九一年の集中豪雨で大規模な地滑りが発生。建設省(現国土交通省)の調査で、面積が約百坪にも及ぶ大規模な地滑り地区であることが分かった。

このため、九五年から全国で十二番目の直轄地滑り対策事業指定箇所となり、これまでに集水井戸や排水トンネルを設置。本年度までに全長二

・五年の工事用道路と橋が完成した。

国土交通省や自治体関係者を招いた式典では、金婚・白金婚を迎える地元夫婦二組が、テープカットし、くす玉を割って完成を祝った。

美原二区地域づくり協議会の桜井定男会長は「神流湖から三波石峡へ通じる観光道路としても大切な橋で、地域にとって念願だった」と喜んでいる。

(上毛新聞)
06.3.21

地すべりも中和事業も観光資源―群馬県

*税金のブラックホール

四十年近く前にできた同じ利根川水系の下久保ダム(群馬県藤岡市)では、1991〜1992年の集中豪雨で約百ヘクタールにも及ぶ大規模な地滑りが発生しました。このため、国が地すべり対策を実施しています。費用はダム建設費をはるかに上回る三百七十九億円。

ハツ場周辺は下久保ダム周辺と同じく、群馬県内有数の地滑り多発地帯。ダム完成後、地滑り対策が必要になれば、新たな公共事業が生まれます。

市民団体がハツ場ダム予定地における地質の脆さを指摘してきたことで、水没予定地住民の中には、地滑りを心配する声があがり、た。国土交通省は、「地滑りが起きたら、対策をとるから大丈夫」と言い切ったそうです。

・・・地滑りの対策費はどこから出るのでしょうか?

現地は今……その6

2006年4月

◆リゾート法と生活再建

水没予定地にある川原湯温泉では、冬の間、水道水源が枯れ、住民の生活に暗い影を落とした。ダム工事によって水脈が切られたのが原因だという。ダム建設現場に取り巻かれた観光地は、経営が苦しくなる一方だ。

ハッ場では、水没住民の生活再建の手立てとして“現地再建方式”というルールが20年以上前に敷かれた。当時、下流ではダム不要論を訴える声は小さく、夏になるとお決まりの濁水騒ぎが報道されていた。地元住民は孤立し、ダムを受け入れざるをえない状況に追い込まれていた。

ダム建設の布石は中曽根政権のもとで次々と打たれてゆく。国の意向を受けた群馬県が、疲れきった住民らを説得する道具として利用したのが“現地再建方式”であった。国会では「大規模リゾート建設促進議員連盟」（会長：小淵恵三）の旗振りでリゾート法が制定される（1987年）。ハッ場地区はリゾート法に基づく“ぐんまりフレッシュ高原リゾート構想”の重点整備地区に指定され、バブリーな箱物政策が住民に幻想をふりまくことになった。

「(昭和)57年2月の衆院予算委員会で公明党が建設業界の作ったダム工事の談合の資料を明らかにした。ハッ場ダムは当時、福田元首相に近い大成、前田建設が請け負うことになっていた。しかし、その後、中曽根元首相の親戚にあたる鹿島建設が浮上。鹿島建設は実績づくりとして、同町の浅間

高原に総額250億円のリゾート開発『浅間スポーツアリーナ』計画を打ち出し、昨年、県が計画を承認した。ハッ場ダム建設は、生活再建案に伴う整備計画を含み五千億円を上回る一大利権事業だという人もいる」
— 東京新聞、1990年2月18日記事より

かつて鳴り物入りで登場したリゾート法による計画は、その後、宮崎のシーガイアをはじめとして全国いたる地域で破綻した。ハッ場地区は、リゾートと生活再建は目的を異にするとの理由から、いつのまにか“リゾート構想”から外される。

◆矛盾のツケはどこに？

けれども代替地計画そのものは、ダム事業が続く限り生き続ける。国の約束では、補償基準調印（2001年）の際には、代替地への移転が可能になる筈であった。だが、10年かかって出来上がったのは、モデルハウスと長野原第一小学校だけだった。この間、ダム建設を前提として生活設計を立てている住民らは、「一刻も早く代替地を」と要望してきた。国交省は2005年度中には代替地分譲を開始すると改めて約束したが、2006年4月現在、分譲開始の見通しは立っていない。

水没予定地の世帯数と代替地移転を希望する世帯数(2006年2月)

年 集落名	1979年	2000年	2003年	2005年	2006年	代替地希望
川原畑	79	95	70	27	26	17
川原湯	201	181	150	93	73	36
林	103	108	102	96	99	22
横壁	47	62	54	45	51	16
長野原	392	321	312	308	307	38
計	822	767	688	569	556	129

* 川原畑、川原湯は全水没予定。他地区は一部水没予定。

* 1979年の数字は群馬県調べ、2000年～2006年は3月末、長野原町調べ。

全国のダム予定地と同様、ハッ場でもダム事業が動き始めると補償金目当てで水没予定地に流入する、いわゆる“ダム屋”がいた。2001年の補償基準調印後、それらの人々は真っ先に出て行ったが、水没予定地に留まる住民は依然として少なくなかった。しかし2003年12月、国交省が周辺地価より遥かに高い代替地の分譲価格を発表すると、人口流出は一気に進む。分譲基準が正式に調印された2005年9月以降、川原湯温泉街では、家屋の解体が日常風景となった。

国交省は年末、代替地計画を4割も縮小したため、昨夏に続き、この冬、代替地移転の希望を確かめる意向調査を改めて行った。だが、実際に代替地に移転する世帯がどれほどあるかは、依然として不透明だ。国交省は「住民との合意の上で代替地計画を進めたい」としているが、代替地の最終的な設計図は未だにできていない。地権者の中には、ダム事業の進め方に納得できず、道路、代替地などの用地提供を拒む人も少なくない。

「めがね橋も国道のトンネルも二車線しかない。それなのに、1～2キロしか続かない村の土地は四車線分の用地を買うという。ヘビがカエルを呑み込んだような、変な道路ができるだろうヨ」— 税金のムダ遣いを目の当たりにしている地元では、「ハッ場ダムの完成は2010年度」という国交省の言葉を信じる人はいない。

◆ 春祭り

川原湯の対岸にある川原畑では、住民の心の拠り所である神社の解体が始まった。温泉街の坂の上にある川原湯神社も、つけ替え県道の予定地にかかっている。4月8日、川原湯神社では太々神楽が奉納され、老若男女が待ちかねた春の訪れを祝った。古式ゆかしい装束に身を固めた川原湯の男衆が、国ツ神、天ツ神、ヤマタノオロチなどの面をかぶり、笛と太鼓に合わせて古いにしえの物語を演じる神楽殿には、春の光があふれ、時折吹き込む突風が笹の葉をザワザワと鳴らした。地元、長野原町では4期16年続いた田村町政が終わりを告げ、4月23日の町長選で新町長が誕生した。(清沢)

ライブ&トーク

「加藤登紀子と仲間たちが唄う

ハッ場いのちの輝き」

■開催日時：2006年10月9日（祝・体育の日）、15:00~17:00

■場所：東京・日本青年館大ホール（神宮外苑横、約1300人収容）

■チケット代：自由席3000円、指定席5000円

■出演者：加藤登紀子（歌手・国連環境計画親善大使）

永六輔（放送タレント、作家）

野田知佑（カヌーイスト・エッセイスト）、

大熊孝（新潟大学教授）他

■プログラム：加藤登紀子さんがナビゲーターとなってすすめるライブ&トーク

*おトキさんのギター弾き語り、子ども達との合唱

*ゲストの永六輔さん、研究者らをまじえたトークショー、

*野田知佑さんのハーモニカ などのアイデアを生かします。

■プロデューサー：前田和男

■主催：「ハッ場といのちの共生を考える」実行委員会

実行委員長 大河原雅子（ハッ場ダムを考える会・東京支部長）

■事務局連絡先：ハッ場ダムを考える会

「世界環境まつり」アステ

4月22・23日

東京代々木公園

実行委員長 C.W. ニールセン

「おんぼの運動」に共鳴します。
登紀子さんのイベントの呼びかけ人
になりました。

「おんぼ」?
聞いたことないの?
名前だけなの?

「おんぼ」
今「おんぼ」
おんぼの会

「おんぼ」の番組
おんぼの番組
見たの?

他を圧倒する気迫で、
予定したちらしは全て
撒ききりました。

捨てられたチラシも
ほとんど見かけず、
ホッとしました。

大河原雅子（ハッ場ダムを考える会・東京支部長）

加藤登紀子さんのメッセージ

『川原湯温泉をはじめて訪ねたのは去年の夏、温泉宿のあかりにそそられ坂道を登り「旬」でおいしい川魚料理をつまみながら一杯飲んだ。

その時の話題のひとつ。「ダムに沈む川原湯温泉」という看板の字を変えるので、今新しいアイデアを募集中だという。私も「心も体も美人がいっぱい」など、いくつか考えてみた。

ダムが計画されて五十余年、二千億円以上がすでに投入されたが、まだ、ダム本体の工事までたどりついていない。代替地の整備もおくれ、宙ぶらりんの状態におかれた地元の人たちは、あきらめと苛立ちにゆれている。

浅間山噴火の後の火山地質が工事を困難にしている上に水質にも問題があるという。東京、埼玉、千葉、茨城など首都圏の飲み水の確保と治水のためというけれど、このダム計画自体の是非も論争の中だ。

こんな不確かな状態に何十年も生きてきた人たちの辛さを思うと、東京や千葉の人たちが何も知らずにいいのかと申し訳なさでいっぱいだ。

今もダム工事では予算が投げ続けられているけれど、さらに数千億円かかるこのダムが出来ない可能性もあることも考えておかなければいけないだろう。

せめて、今、この水没予定地で生きている人たちを力づけたい、思うことはただそれだけだ。そして、知らん顔してる首都圏の私たちに、何が出来るのかを考えたい。

「旬」の家の少年つとむ君が描いたピチピチの岩魚の絵が忘れられない。大人たちがいろんな思惑に疲れ果てていても、子供たちにはふるさとを全身で受けとめてほしい。どんなことがあっても、生きるよろこびにむかって生きていけるように。』

歌手・国連環境計画 (UNEP) 親善大使

加藤 登紀子

加藤登紀子さんと実行委員会の呼びかけに、早くも

宇沢弘文さん（経済学者、東京大学名誉教授）、

羽田澄子さん（映画監督）、

C. W. ニコルさん（作家）、

野田知佑さん（作家・カヌーイスト）、

池田理代子さん（漫画家）、

中平順子さん（子供文化研究家）

など、社会の多方面でご活躍の方々が呼応し、イベントへの協力を申し出て下さっています。

おいしい地下水を飲み続けたい

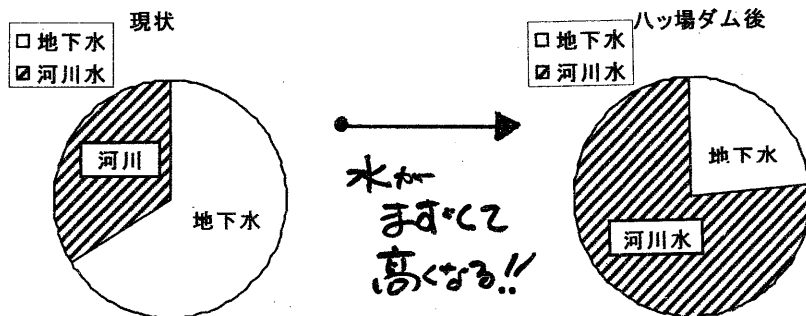
～ 地下水を切り捨てるハッ場ダム計画～

入江晶子 (佐倉市議会議員)

私が住んでいる佐倉市は、千葉県北総部に位置し、印旛沼を抱える豊かな水と緑に恵まれた街です。城下町としての歴史をもちながら、高度経済成長期には大規模な宅地開発が行われ、人口は17万5千人に達しましたが、2,3年後をピークに減少に向かうと推計されています。市内には今もなお「谷津田」と呼ばれる里山風景が広がり、湧水も豊富です。

<ハッ場ダムで佐倉の水道水はどう変わる？>

佐倉市の水道水は、1985（昭和60）年以前は地下水100%でしたが、それ以降は印旛広域水道用水供給事業から利根川の水を受水しています。これは、千葉県公害防止条例（現在、千葉県環境保全条例）により、佐倉市が地下水の汲み上げ規制地域に指定され、増加する需要分は表流水でまかなうとされたためです。市には33本の井戸がありますが、そのうちの25本が暫定井戸で、ハッ場ダムが完成すれば廃止されてしまいます。



1960年代後半は地盤沈下が進行し、地下水汲み上げの全面的な規制が進められましたが、その後、佐倉市の地盤沈下はほぼ沈静化しています。現在と同程度の地下水の汲み上げは問題ありませんが、未だにこの県条例に縛られ、霞ヶ浦導水事業やハッ場ダム建設への参画理由となっているのです。県内では佐倉市と同様、ダムなどの水源開発によって地下水利用が廃止されるケースが数多くあります。

佐倉市議会では千葉県知事に県条例の見直しやハッ場ダム事業の見直しを求める意見書を提出し、安全でおいしい地下水を飲み続けたいと訴えてきました。ハッ場ダムが完成すると、単純計算で現在の水道料金の倍以上に値上げしない限り、水道事業経営が成り立たないという事態が予測されます。脱ダムの流れが世界の潮流となるなか、日本でも限られた資源の有効活用を真剣に考える時代にきています。自前の貴重な水源である地下水を保全するために、雨水の涵養をはかり、適度に汲み上げて使い、地域の健全な水循環を促す総合的な水政策こそ求められているのではないのでしょうか。

千葉県の水道事情について
各自治体の地下水依存率など
詳しいデータは希望の方は、事務局まで
ご連絡下さい。

<いま、市民力が試される>

ハツ場ダムに関する千葉県の負担金は国庫補助金を除くと 328 億円、うち利水負担が 153 億円、治水負担が 175 億円、その他負担金をあわせると総額 383 億円にも上ります。2004 年住民訴訟スタートまでに、すでに 130 億円が支出されました。巨額の負担を強いられながら、自治体は国の直轄事業であるため、国の方針には異議を申し立てられないというのが本音ではないでしょうか。地方分権とは名ばかり。相変わらずお上の言うなりに行政運営を行っているのです。官僚主導の中央集権的な流れを変え、必要のない無駄な公共事業を中止させるために、ハツ場ダムの運動の輪をさらに広げていきたいと思います。

【千葉県内の水道水源井戸】

(嶋津暉之さん作成)

	暫定井戸(ハツ場ダムなどが完成したら廃止される井戸)		非暫定井戸(廃止されない井戸)	
	井戸本数	一日平均揚水量 m3/日	井戸本数	一日平均揚水量 m3/日
東葛地区	16	1,361	132	81,772
葛南地区	5	894	78	57,052
千葉・市原地区	61	20,812	117	38,889
君津地区	32	11,285	55	36,147
北総地区	140	38,215	108	40,276
合計	254	72,567	490	254,136

(日平均揚水量は 2002 年の値を示す)

<ハツ場ダムと印旛沼>

2003 年 11 月、国からハツ場ダム事業費を 4600 億円に増額する変更案が示されると、関係都県の知事をはじめとする利水予定者は、実質的な再検討を行わないまま、国の方針を認めてしまいました。佐倉市が関わっている印旛郡市広域市町村圏事務組合でも、国の変更案に対して“異議なし”の回答をしました。また、これに先立つ県との協議では、ハツ場ダムの水利権を減らし、その分を新たに印旛沼開発高度利用の水利権に振り替えることになりました。“印旛沼高度利用”というのは、昭和 38 年から 44 年の国営印旛沼開発事業によって整備された水資源開発施設を有効利用し、ハツ場ダムと印旛沼の水を合せて水開発を行うというものです。一時停止していたこの計画が再浮上してきたものの、詳細は未定です。“印旛沼高度利用”の安定水利権を得るのは、現在進め

られている印旛沼開発施設緊急改築事業の完了後となる 2010 年度以降と見込まれ、この取水と関連して印旛沼の水質浄化も促進させるとのことです。

今年 2 月に国交省が示した利根川水系河川整備基本方針では、戦前からの利根川放水路計画を変更し、洪水時に印旛沼に毎秒 1000 トンもの放水をし、調整池として機能させることになりました。千葉県は、国から印旛沼の水質浄化につながるなどの説明を受けて歓迎していますが、生態系にはどのような影響が及ぶのでしょうか？ まして印旛沼は、現在でも飲料水を取水する湖沼のなかで“水質ワースト 1 位”です。河川整備基本方針を具体化する基本計画が今年度中に策定される予定ですが、印旛沼に係わる事業が治水面、利水面でどのように展開していくのかを注視し、住民として声をあげていかなければなりません。

青い夜にうたう夢

山本 まり

山がうたうのを聞いた。

中学生の頃だ。

私は屋根の上で空を眺めるのが好きだった。

妹は、「お姉ちゃんは猫のようだ」と言って笑った。

ある良く晴れた煌煌と月の輝く夜、私は月の光に誘われてこっそり屋根の上に忍び出た。

昼間の太陽の温かさを吸い込んだ屋根瓦のほんのりとした温みをお尻に感じながら、

私は星と月と山やまを眺めた。

山から吹き降ろす風が私の前髪を弄った。

芳香を含んだ風を吸い込みながら、

山やまの木ぎが、ざわざわとその身をくねらすのを見た。

山がうたっていた。

規則正しい波長で。

ラベルのボシロとか、バッハを思わせる旋律を確かに私は身体に感じていた。

青い月の光に包まれて。

山はうたうのだな、とそう思った。

しびれるような気持ちで、私は山と月と星を眺めた。

静かな夜。

あの山やまのおかげで、私はなんとか、無事に大人になることができた。

私には、はっきりと、山に守られている実感があった。

もし、山の無い場所で育っていたら、

私はとうに心か身体かどちらかを病んで死んでいただろう。

そしてあの山は死んでしまった。

私は見ていただけだ。山が死んでいくのを。

青い月の光に包まれた、山も川も里も遠い幻になってしまった。

もう取り返せない。もとはには戻らない。

いつそ、あの山に深い穴を掘って私も一緒にうずめて欲しい。

そして、青い夜にうたう夢を、山とともに見よう。



「青い夜にうたう夢」は、ジャーナリストのまさのあつこさんのパソコン通信、『ダム日記』に1997年9月27日に掲載されました。

著者の山本まりさんは、岡山県に建設された苫田ダムによって故郷を奪われました。昭和32年に計画が発表された苫田ダムは、当初から地元、奥津町が自治体を挙げて国の政策に反対。県下町村への見せしめともとれる行政圧迫は熾烈をきわめました。治水・利水・地質などの問題を抱えながら、お金と時間と権力の力で地元民の結束が切り崩されていった苫田ダム反対闘争の経緯は、八ッ場の闘争を彷彿とさせます。

計画から42年後の1999年、苫田ダムは本体着工され、ついに昨年完成。ダムが堰き止めた吉井川は瀬戸内海の子島湾に流れ込みますが、今年は海苔の色落ちが発生したということです。山本さんが子どもの頃、町内には「ダム絶対反対」という看板と共に、「苫田ダム建設賛成」 という、県からの切り崩し工作によって賛成派となった人たちの大きな看板が乱立していたそうです。

山本さんから、原稿の掲載許可をいただくとともに、「月日が流れ（水没地のことが）“過去”のこととして忘れ去られてしまうのかと思うと、なんともやりきれない気持ちです。これ以上ムダなダムによって苦しむ人、壊される自然がふえないことを願っています」とのメッセージをいただきました。

～☆ やんばの絵葉書 ☆～

アウトドア自然保護基金、パタゴニアの支援金で絵葉書が出来上がりました。川辺川の運動で活躍してこられたデザイナー、渡辺誠さんが、チラン同様、ボランティアでデザインを担当。八ッ場の風景、動物の写真＋クマタカの写真つきメッセージカードの七枚組みです。川原湯の道祖神の写真は、暮らしの手帖社が無償提供して下さいました。皆さんのおかげで、ステキな絵葉書に仕上がりました。

カンパも含め、定価500円で販売します。(八ッ場ダムを考える会の会員特典として、送料は会で負担します)お店、団体などで販売して下さる場合は、卸価格300円(送料別)で提供します。

ぜひ、ご利用下さい。

ハツ場ダム裁判は、

原告代表 嶋津輝之

◆ はやくも一年半…

一都五県の住民が一昨年 11 月に各地方裁判所にハツ場ダムの住民訴訟を起こして早くも約 1 年半が経過しました。この訴訟は、各都県が不要かつ有害なハツ場ダム事業に参加して巨額の費用を負担するのは住民に多大な損失を与えるものであるとして、ハツ場ダム事業からの撤退を求めるものです。各地裁では数カ月おきに裁判が開かれてきていて、すでにそれぞれ 6～8 回目の裁判になっています。

被告の各都県側は「国の事業の是非を住民訴訟で問うのは、住民訴訟の範囲を逸脱している」として却下を求め、それに対して原告の住民側は、「各都県が自らの意思でハツ場ダム事業への参加をきめているのであるから、ハツ場ダムの是非を各都県が判断する責任がある」として、ハツ場ダムの是非についての審理に入るように求めてきました。

この本案(ハツ場ダムの是非)に入る前のやり取りは、入口論とか本案前とかという言い方をしますが、今年に入ってようやく入口論は横において、中身の議論に入ってきました。ただし、入口論の決着がついたのではなく、中身のことも聞かないと入口論の判断もできないという各地裁の考えによるものです。

◆ ようやく中身の議論に入ってきた

ということで、住民側は各地裁で、治水、利水の両面においてハツ場ダムが各都県にとってどれほど不要なものであるかを具体的なデータで明らかにした書面を順次提出し、その陳述を行ってきています。陳述は、パワーポイントによる映像を使って弁護士さんまたは原告が行っていますが、それぞれわかりやすく迫力があってなかなか好評です。治水、利水の書面提出が終われば、続いてダムサイトの危険性、環境問題の書面を提出する予定です。被告もこの詳細な書面に対して反論せざるをえないでしょうから、裁判は必然的にハツ場ダムの是非という本案の議論に入ることになると思います。

◆ 画期的なさいたま地裁

各地裁の審理の進め方は裁判長の意向によって多少の差がありますが、それほど大きな違いがありません。ところが、4月19日のさいたま地裁の裁判では、新しい裁判のやり方を垣間見ることができました。半年ほど前に着任した左陪席(傍聴席から見て右側)の女性裁判官が本案前の事柄の一部について原告、被告それぞれの主張と裁判所の検討案をまとめた詳細な表を原告被告の双方に配って、次回までに検討することを求めました。裁判長はいずれ、本案についてもそれぞれの主張と裁判所の検討案を整理したものを示していくと述べていました。裁判というのはとかく一方的なものであって、双方の主張を裁判所がどの程度理解しているのか、よく分からないまま、判決が出てしまうものなのですが、このさいたま裁判では裁判所がどのように理解し

ているかを事前に示し、検討を求めるといいます。画期的な審理の進め方ではないかと思
います。裁判員制度の導入を3年後に控え、これからは、裁判所も新しい裁判のやり方に変わっ
ていくのかもしれませんが。

◆ 最高裁に報告される傍聴者数

各地裁での裁判で重要なことは傍聴席を住民がほぼ満席して、裁判の成り行きを見守ってい
るという姿勢を示し続けることです。裁判所に前に勤めていた人の話では、各裁判の傍聴者の数
が最高裁にも報告されているようで、その裁判がどの程度社会の関心を集めているかを重視し
ているようです。裁判官もそのことを意識していますから、大勢の住民が見守っていれば、住民
側の主張に耳を傾けて、慎重な審理を行うことになります。その点で、是非、皆様もお時間があり
ましたら、裁判の傍聴に参加して下さるよう、お願いします。

【裁判スケジュール】

茨城	5月9日(火)	午後1時30分	水戸地裁
群馬	5月12日(金)	午前11時00分	前橋地裁
栃木	5月25日(木)	午前10時00分	宇都宮地裁
千葉	5月26日(金)	午前11時00分	千葉地裁
埼玉	6月14日(水)	午前11時00分	さいたま地裁
東京	7月4日(火)	午前11時00分	東京地裁

...【各地の連絡先】.....

★八ッ場ダムを考える会



★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会



★八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会



★八ッ場ダムをストップさせる東京の会

★八ッ場ダムをストップさせる千葉の会

★八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

★八ッ場ダムをストップさせる群馬の会

★八ッ場ダムをストップさせる茨城の会

★ムダなダムをストップさせる栃木の会

★八ッ場ダムを考える千葉の会

★八ッ場ダムを考える市民の会おおた

5月13日
14日

ハッ場をめぐって
政治・経済からくり
学習会

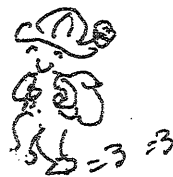
★「まさのあつこさん学習会」 in 群馬・高崎

ダム問題、林業、不妊治療などなど、八面六臂でご活躍中のジャーナリスト、まさのあつこさんのミニ学習会を高崎で開きます。政策秘書として国政の裏方を担った経験をもとに、ハッ場ダムを取り巻く政治、経済のカラクリをお話しいたします。

▽ 日程：2006年5月14日（日）午後3時～5時

▽ 会場：高崎市労使会館2階会議室

（JR高崎駅より徒歩10分、



★「なぜ止まらない!? ムダな公共事業&ハッ場ダム学習会」 in 東京・小平

◇ 日時：5月13日（土）1:30～4:00

◇ 場所：小平市中央公民館ホール（西武多摩湖線青梅街道駅より徒歩3分）

◇ 講師：佐藤謙一郎さん（公共事業チェック議員の会前事務局長）

住民訴訟報告：梶原健嗣さん（東京大学大学院博士課程在籍）

◇ 主催：ハッ場ダムをストップさせる東京の会

国の借金が800兆円を超えたというのに、ためた水を使うあてのないダム、飛行機のない空港、車の走らない道路が作り続けられ、ムダな公共事業は一向に止まりません。その一方で、福祉の切り捨て、増税など、国民の負担は重くなるばかり。ムダの温床、特別会計をはじめ、こうした国の構造をどうしたら変えることができるのでしょうか？ 公共事業をチェックする議員の会の事務局長として活躍され、全国の現場に足を運んだ佐藤謙一郎さんにお話を伺います。

★ 会費・カンパのお願い

皆さんの力がつながり合って、ようやくハッ場の運動も地に足がついてきました。国のダム事業に待ったをかけるために、私たちは様々な攻め口を探ってきました。

◆ 科学的実証に裏付けられた正論（ダムの不要性、危険性、不経済性など）の提起

◆ 広報活動による世論の喚起

◆ 政官財癒着構造の解明

◆ 代替案（ダム中止後の生活再建・地域再生プラン）の提示、などなど。

事務局では、これら様々な活動の側面支援に資金を活用させていただいております。運動のさらなる飛躍のために、たびたびのお願いで大変恐縮ですが、年会費（2000円）、カンパご入金と同封の振込み用紙をご利用下さい。経費節減のため、振込み用紙の受領書を領収書に代えさせていただきます。正式な領収書ご入用の際は

新緑の
現地に行こう

5月6日
7日

★ 吾妻渓谷でチラシをまこう

同封のチラシは、アウトドア自然保護基金からいただいた助成金で制作しました。このチラシを5月7日、吾妻渓谷で配ります。新緑シーズン、現地を訪れる多くの観光客が、国交省の掲示板を読むだけで、ダムのような問題、水没関係住民の苦しみを知らずに帰ってしまうのは、なんとも残念！是非、皆さんもチラシまきにご参加下さい。スタートは、ダムサイト予定地、午前10時です。

なお、チラシの単価は実費で5円ですが、会員さんには無料でお分けします。(郵送をご希望の場合は、郵送料をご負担いただくと助かります。)

★ 新緑のハッ場エコツアー

◇日程 2006年5月6日(土)

11:00 高崎駅東口駅交番前 バス出発 (昼食は各自でご用意下さい)

12:30 JR川原湯温泉駅、バスで出発

*ハッ場ダム問題の研究者、嶋津暉之さんのガイドによる現地バス見学。

吾妻渓谷、ダムサイト予定地、品木ダム、草津中和工場、長野原第一小学校 etc.

16:30 川原湯温泉駅着

*バスは高崎駅東口まで戻ります。途中乗車、下車とも可能です。

*参加費・・・1人3000円(バス代込み)。

期日が迫っておりますので、お申し込みは至急

★ 利根川ツアー

6月3～4日、バスによる利根川ツアーが実施されます。長大な坂東太郎の上流から下流まで、目と足で確かめてみてはいかがですか？ 詳細については、
へお問い合わせ下さい。

★ 追加のお知らせとお願い

- 住所不明で会報が返送されてしまうケースが多々あります。住所変更、市町村合併により住所表記が変わった方は、ぜひ事務局へご連絡下さい。
- トキコさんイベントチケット予約受付中。売り出しは6月の夏至の日の予定。問い合わせ多数につき、どうぞ早目のご予約を！

シンポジウム


ハッ場ダムは大丈夫か 第二弾 in 群馬・中之条

昨年3月、ダム予定地直下の中之条で地質をテーマに学習会を開催しました。その後、国交省の情報開示などにより、ダムサイト予定地の岩盤、代替地の地質について、さらに多くの問題が明らかになりつつあります。

今後、裁判でも地質問題が論じられることとなりますが、それに先駆けて、シンポジウムで大枠の問題提起を行います。

○日程：2006年7月2日（日） 午後1時半～

○会場：群馬県中之条町ツインプラザホール

（JR吾妻線中之条駅より徒歩10分、）

○講師：高橋利明弁護士、嶋津暉之氏、矢部俊介氏

*シンポジウム終了後、バイオントダム崩壊の悲劇を伝える
イタリア映画「プロジェクトV」の無料上映会を行います。

ハッ場ダムは現在の計画では、2010年度完成の予定です。

けれども、本体工事はまだまだ先です。

次の世代の“いのち”のために、ダム計画を見直しましょう。

年会費（秋の総会から総会まで）／個人会費2000円、団体会費3000円
郵便振替口座00550-2-32681 （カンパもよろしくお願いします!）

編集：ハッ場ダムを考える会

【URL】 <http://www.yamba-net.org> 【E-mail】 info@yamba-net.org